

福井県民の将来ビジョン 分野別意見交換会 意見概要

(観光)

- 「福井県にはおいしい食材がある」と旅行者から友達や家族に口コミで伝えてもらうことが大切。そのためにもおもてなしの心で接することが重要。
- 福井のホテル・旅館では外貨両替できない。中国人のバイトを雇用して、もてなすのも一つの手である。また、東京発の往復割引きっぷの造成なども必要。
- 福井のギネスNO. 1、日本のNO. 1を県民が発掘して、それを自慢できるようにしてはどうか。「なぜか長寿」のキャッチフレーズは人に話をするときに、食べ物や自然などの話を続けることができるよいキャッチフレーズであった。
- おもてなしの心では、観光バスに手を振るなどのちょっとした県民の気持ちが必要。
- 国道305号線は「日本海に夕陽が沈む道」とのネーミングや、「恐竜街道」も始点と終点の定義づけなどが必要。
- 天下一街道もバラバラであるし、嶺北、嶺南、越前、若狭など、統一感がない。
- 福井県の食材は「きめこまかな味」でおいしい。おおざっぱな味ではない。
- 6大古窯のサミットを開催してはどうか。
- 福井は素材では負けていない。リピーターを増やす戦略が必要ではない。
- 鹿児島県では、県民まごころ運動のおかげで、じゃらんのおもてなしランキングで全国2位となっている。(1位は沖縄県。鹿児島県は県民の6割が武士と言われ、えらそうだった。具体的にはタクシーのマナーが向上したのと、県民をあげて8月を推進月間としている。)
- 博多は周辺に観光地がないが、宿泊の観光客・ビジネス客が多い。飲食店の人のもてなす心が行き届いているからだと考えている。
- おもてなしの心では、子どものうちからあいさつができるような教育が必要である。
- 一乗谷朝倉氏遺跡は広島の大分神社と同等の歴史があることを地元の人たちでも知らない。地元の小学生には観光客に朝倉氏遺跡の案内をさせている。自分の地元で愛着を持ってもらうのと、中学・社会に出ても堂々と話ができることを期待しているためである。
- 中国人は朝倉氏遺跡の歴史には興味がない。400年といっても、中国4000年の歴史には勝てない。外国人観光客を誘致するためには、恋愛ドラマの誘致が必要である。
- 中国人は高いところ、日本一のところが好きである。福井では恐竜博物館がそれにあたる。他県の事例として、富山県では台湾のそごうデパートの前に「立山」の看板を出している。
- 福井の外国人の観光客入込み数は日本全体に比べてもあまりにも少なすぎる。子ども連れの観光客を呼び込む戦略が必要である。

- 先日、東南アジアを訪問したが、インドネシア人は日本でも富士山、秋葉原、新幹線ぐらいしか知らない。その中でも、一乗谷のポスターを持っていったら、現地の観光旅行会社からぜひこのポスターをくれないかと言われて、全てなくなってしまった。他県のごてごてしたものよりもシンプルなもののほうが印象的なようである。また、他県の人たちも福井県の学力の高さに驚いていた。県民が教育に対して一丸となれるようなつながりが必要
- 東南アジアでは、アニメやゲームで日本ブームのようだ。「おしん」も人気のようなので、「江」のような耐える女性はキャラクターになると人気ができるのではないか。
- 華僑の旅行会社の人に言わせると、中国は排気ガスなどで環境がよくないので、日本に行くと、空気や水がきれいなので、病気が治るとの話があるみたいだ。
- 松下幸之助がいう「石炭よりも観光」という言葉はどうか。枯れない資源をどう掘り起こして活用していくか。
- １０年後には県民が観光を通して地元を学べる「旅育」が重要となるのではないか。
- 観光産業の位置づけが不明確である。政策プロセスとして、課題が洗い出されていない政策スキームになっていないか。隣県との予算の比較なども必要
- 状況のターニングポイントに合わせて、施策を立案することが重要。４年後の舞鶴若狭自動車道の全線開通や８年後の福井国体の開催で、人流の変化や人が集まる機会が控えている。
- 県民が何を目標しているか分かっていないのではないか。プロモーション計画がない。流通の関係で福井の１次産品が東京に比べておいしいのは当たり前である。その中で何を売り出していくのか。
- イメージが重要である。福井なら県外の人知っているのは、越前がに、あわら温泉、若狭の海水浴場。ただし、あれもこれも数多く売り出してもわからない。来年なら「江」であるとか。教育に絞るのも手である。
- 過去に県内の観光地ツアーを企画したが難しかった。現在は福井県民を県外の観光地に運ぶのがメインである。また、１０年後まで観光路線が維持できているかは難しいところである。
- 最近、観光客の乗客で一乗谷朝倉氏遺跡、恐竜博物館などが増えてきた。（以前は永平寺と東尋坊）。食べ物がおいしい福井であるので、県内のおろしそばのマップを作成してはどうか。また、越前がにには、シーズンになると福井市内では予約しないと食べられない状況になってしまっている。
- 旅行会社は県内開発を怠ってきた。地域の語り部を増やし、バスやタクシーの同乗して案内するしかけが必要
- 観光客に「福井を思い浮かべてもらう戦略」、「せっかくの心」を持ってもらうように、福井県全体にテーマパーク性をもたせなければならない。
- 若狭路では体験旅行に力を入れているが、漁業、農業とも指導できるリーダーがいない。
- 愛郷心が重要であり、若い世代の育成大切。
A P E Cでは英語ができないため、料理の提供を断らざるを得なかった。県立大学等に外国語学部等を設置してはどうか。